

業務実績報告書

提出日 2020年1月22日

1. 職名・氏名 学術教養センター教授・杉村和彦

2. 学位 学位 博士(農学)、専門分野 農業経済学、
授与機関 京都大学農学部、授与年月 2002年1月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名(単位数)主たる担当年次など 文化人類学 (4単位) 毎年開講) 1-2年生
②内容・ねらい 人類集団の文化の多様性を民族誌に即しつつ論じ、あわせて「人間の科学」といわれる文化人類学の考え方を理解させる。またその主要な学説とその展開過程を紹介する。また、文化人類学の視点から現代が抱える問題のいくつかを解明していく。特にエスノ・サイエンス(民族科学)の領域の可能性を医療・農学・色彩や模様などについて講述する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 文化人類学においては現地の生活をリアルに伝えるために視聴覚教材が極めて重要である。かねてよりこうした教材の使用は行っていたが、こうした方向をより洗練されたものにするよう努めた。
①担当科目名(単位数)主たる担当年次など 地域特別講義 「匠と現代」(4単位) 毎年開講) 1-2年生
②内容・ねらい 本講義は福井の文化の一つの核である伝統工芸(和紙・漆、刃物など)の伝統と展開を、オムニバス形式で当代一流の匠たちに登壇していただき、世界に発信しうる地域文化の意味を比較の視点からとらえ直す。同時に、モノ作りにかけた幅の広い匠たちの生き方・考え方を通して現代社会における真の「仕事」とは何かを考える機会にする。また地域未来学として現代社会におけるそれぞれの伝統工芸の発展の可能性をスピーカーとともに受講生でともに考える。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 この講義では多くのスピーカーに登壇していただき、その生の声を聞いてもらうことを日等の軸においてきた。ただそれぞれの匠の技術的理解などは、匠の話を書く前提として知識として持つておくことも必要であり、そうした話もたくみの話の前におくよう工夫をした。
①担当科目名(単位数)主たる担当年次など 文化人類学特殊講義 (2単位) 2回生以上
②内容・ねらい 本講義では、文化人類学の学問の方法としての多角的な比較の方法を狩猟・採集民、牧畜民、農耕民とともに、海洋・漁撈社会も対象として理解させる。特に生活者の内部からとらえられる文化人類学のこれまでの研究成果が有する可能性を他の学際的な領域との比較の中で検討する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義の対象者である海洋生物資源の教養科目ということ意識して、文化人類学を基礎としながらも「漁業、漁民」の世界を内部からとらえるような事柄を軸にしてこうぎをおこなった。海洋生物資源を卒業する学生の中には、一度も漁業者の世界を知らずに卒業する者も多く、漁業の世界の雑学を教える一つの試みとなった。
①担当科目名(単位数)主たる担当年次など 導入ゼミ (2単位) 毎年開講) 1年生

<p>②内容・ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アフリカに関する知識を深める。 2. 情報の収集、まとめと発表の方法を学ぶ 3. アフリカの社会・文化・歴史・自然などについて、討議を通して再検討することにより、世界についての新たな認識を得る。
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>この授業を通して、アフリカをぐっと身近なものにしてもらいたいと考え、アフリカの社会・文化・歴史・自然などの概要をタンザニアという一つの国を中心に学び、参加者の関心に基づく研究発表によって、大学生にふさわしい学習・研究法を学ぶ。</p>
<p>①担当科目名（単位数）主たる担当年次など</p> <p>教養ゼミ（2単位）毎年開講）1年生</p>
<p>②内容・ねらい “</p> <p>近代世界” は、アフリカの社会・文化を後れたものとして扱い、歴史なき世界として、アフリカの停滞した世界像を描いてきた。しかし今日、近代の世界像の揺らぎの中で、アフリカの文化・社会の特質と意味が再検討されつつある。アフリカという辺境の歴史的世界からわれわれの世界を考え直す契機とする。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>このゼミではヨーロッパを軸とした歴史記述の中で、これまでほとんど知られていないアフリカの歴史を身近なものにするため、アフリカでの歴史の動きを同じ時代の日本の歴史やヨーロッパの歴史とも対比しながら、比較史の中で世界史の中のアフリカの位置と特質を考えていくよう工夫した。</p>
<p>①担当科目名（単位数）主たる担当年次など</p> <p>学術ゼミ</p> <p>現代社会の新たな文化・社会現象の内在的理解を目指して、各種文献を詳細に読み解く。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>福井大学医学部 文化人類学</p> <p>文化人類学の視点から現代が抱える問題のいくつかを解明していく。本年の講義では、アフリカ社会の中から生活様式を異にする、狩猟民・牧畜民・農耕民などの民族集団を取り上げ、その集団の自然観、労働観、蓄積様式、互酬性、社会構造、宗教などの文化的特性について考察することによって、「豊かさ」や「富」のあり様の多元性、多様性の可能性を明らかにする。また併せて文化ごとの死生観の差異についても学ばせ、医療人類学的発想の基礎を獲得させる。</p>
<p>(3)その他の教育活動</p>

4. 研究業績

<p>(1)研究業績の公表</p>
<p>①論文</p> <p>杉村 和彦「アフリカ・モラル・エコノミー研究と共同体論」杉村編『アフリカ・モラル・エコノミーの視圏』 pp.3-30, 2013年</p> <p>杉村 和彦「論争の中でのハイデンの「小農的生産様式」をめぐって」杉村編『アフリカ・モラル・エコノミーの視圏』 pp.119-134, 2013年</p> <p>杉村 和彦、石原一成「健康長寿の地域性—日本の中の福井と北陸」福井連携リーグ『ふくい総合学 健康と長寿から地域を捉え直す—こころ・からだ・しゃかいの視点から』pp.37-55, 2013年</p> <p>杉村 和彦「福井、しゃかいの健康Ⅱ：農業と健康長寿」福井連携リーグ『ふくい総合学 健康と長寿から地域を捉え直す—こころ・からだ・しゃかいの視点から』 pp.161-180, 2013年</p> <p>杉村 和彦「福井県における高度兼業農村のソーシャル・キャピタル（社会関係資本）と健康長寿」福井県立大学健康長寿研究総括班『ソーシャル・キャピタルを基調とした健康長寿要因の総合的研</p>

究—地域間・国際間比較の視点から』 pp.37-55, 2013年
 Sugimura, Kazuhiko “Endogenous Development and Moral Economy in Agro-Pastoral Communities in Central Tanzania” Sugimura,K.(ed) Endogenous Development and Moral Economy in Agro-Pastoral Communities in Central Tanzania pp.1-8, 2013
]Sugimua Kazuhiko(ed.),2014,Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa:From Comparative Perspectives、(Proceedings of 6th International Conference on African Moral Economy) Fukui Prefectural University, pp.1-287,査読無
 Sugimura Kazuhiko,2016, “Contemporary Perspectives on Endogenous Development and Moral Economy in Agro-pastoral Communities in East Africa” 前掲 Maghimbi,S.ほか編、pp.1-20,査読無.
 Sugimura Kazuhiko,2016, “Education and Agro-pastoral Society-the Crossroad of Moral Economy” 前掲 Maghimbi,S ほか編、pp.202-214,査読無.
 Sugimura Kazuhiko & Davis Mwamfupe,2016, “Conclusion: The wealth of Moral Economy in Agro-pastoral Societies in Central Tanzania” 前掲 Maghimbi,S.ほか編、 pp.215-231,査読無.
 杉村和彦、 2016「東アフリカ農牧民から見た世界史像」前掲石川博樹ほか編、 pp. 135-151,査読無
 杉村和彦 2016「手作り感覚と有機農業：アフリカの世界から学ぶこと」『有機農業研究』VOL.8 NO.1 pp.5-8

②著書

杉村和彦編『アフリカ・モラル・エコノミーの視圏』 pp.1-199, 2013年
 Sugimura,K.(ed) Endogenous Development and Moral Economy in Agro-Pastoral Communities in Central Tanzania pp.1-8, 2013
 Sugimura,K.(ed) Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comarative Perspective pp.1-287, 2014
 杉村和彦『アフリカ・モラル・エコノミーを基調とした農村発展に関する比較研究』平成 22年度—平成 25年度科学研究費補助金（基盤研究(A)（海外学術調査））研究成果報告書 pp.1-245,2014
 杉村和彦・鶴田 格、2014年「農業と農村社会」（日本アフリカ学会編）『アフリカ学事典』 pp.276-279,査読無
 Maghimbi,S.,Sugimura,S.and D.G.Mwamfupe(eds.)2016,Endogenous Development, Moral Economy and Globalization in Agro-Pastoral Communities in Central Tanzania, Dar es Salaam University Press pp.1-236, 査読無.
 杉村和彦・石原一成・塚本利幸『三世代近居の健康長寿学 福井・北陸・日本・世界』2019年
 杉村和彦・山崎茂雄・増田頼保『図説 神と紙の里の未来学—世界性・工芸観光・創造知の集積』2019年

③学会報告等

④その他の公表実績

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動

学会での役職など

地域農林経済学会理事

学会・分科会の開催運営

(3)研究会活動等

① その他の研究活動参加

アフリカ・モラル・エコノミー研究会の主宰（2013年、2015年2016年）各3回程度

② その活動による成果

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

2013 年度 科学研究費基盤研究 A (海外学術研究)「アフリカ・モラル・エコノミーを基調とした農村発展の比較研究」 6,300,000 円
2016～2018 年度 科学研究費基盤研究 (萌芽研究)「科学の知と在来の知の間」 6,300,000 円
2014～2017 年度 科学研究費基盤研究 B「アフリカ半乾燥地の農牧民社会における食糧安全保障と土地収奪の政治経済学的研究」(研究分担者)
2017～2020 年度 科学研究費基盤研究 B「アフリカ半乾燥地における農牧共生に基づく持続的農村開発に関する実践的研究」(研究分担者)
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会
②国・地方公共団体等の調査受託等
③(公益性の強い)NPO・NGO 法人への参加 NPO 森のエネルギーフォーラム理事長
④(兼業規程で業務と見なされる範囲内での)企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 「アフリカの 21 世紀」、「自然エネルギーが語る 21 世紀—福井・日本・世界」など毎年 8-10 回程度開講
② 社会人・高校生向けの講座
③ その他
(3)その他(個人の資格で参加している社会活動等)

6. 大学の管理・運営

(1)役職(副学長、部局長、学科長)
2016.12 月から学術教養センター長をしている。
(2)委員会・チーム活動
教育研究委員会委員 国際部会部会長 COC+部会委員 研究校正委員会委員 地域連携本部委員 入学試験本部委員 センター内国際交流委員会
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など